

平成 20 年 12 月 25 日 岐阜経済記者クラブ 配布資料		
担当部	担当者	電話番号
企業支援部	主任研究員 齋藤恭嗣	058-277-1085

「岐阜県の景況調査（2008 年 第 4 四半期）」について

概況：原材料仕入価格の低下というプラス要因はあるものの輸出を中心に売上高が低下し、採算も更に悪化して景況感は過去最低水準まで低下した。

今回の調査結果の特徴

金融不安による世界的な景気の減速、自動車産業を中心とする売上低迷、生産計画や業績見通しの大幅な下方修正といった情勢を反映して、今回の調査では、売上、生産、受注の各 D I が低下。

特に、欧米の景気悪化や円高の影響で自動車関連を中心とする輸出型製造業の業況が急激に悪化し、製造業の輸出向け売上高 D I は大幅に低下した。

また、原油価格等の下落を受けて原材料仕入価格 D I は 3 期ぶりに低下したものの製品販売価格 D I も同様に低下し、売上の減少もあいまって、採算 D I は 5 期連続の低下となり、「景況感」は過去最低水準まで低下した。

有効求人倍率の低下や減産に伴い、雇用 D I は 3 期連続で上昇し、20 期（5 年）ぶりに「過剰」企業数が「不足」企業数を上回り、雇用の過剰感が増している。

来期の景況見通しは、世界経済不安、消費者マインドの落ち込みなど、先行きの景気が見通せず過去最低の予想となっており、県経済及び雇用状況のさらなる悪化が懸念される。

D I 別の状況

景況 D I は、原材料仕入価格の低下というプラス要因はあるものの、製品販売価格の低下や輸出を中心に売上高が低下するなかで、採算も更に悪化、過去最低水準のマイナス 81.3 まで 5 期連続で低下した。

2007 年第 1 四半期以降低下傾向が続いている売上高 D I は、「食品」など一部の業種を除き軒並み悪化し、2 期ぶりに低下した。

「食品」の上昇は、中国など食の安全問題で落ち込んだ前期の反動によるものと思われる。

輸出向け売上高D Iは、欧米の景気悪化や円高の影響で、前期から39.1ポイント大幅に低下した。

生産量D Iは、「食品」など一部の業種を除き軒並み低下し、9期連続の低下となった。

2007年第1四半期以降低下傾向が続いている受注量D Iは、5期連続で低下した。製造業では「食品」「繊維・衣服」が上昇したが、その他の6業種は低下した。非製造業では「運輸・通信」「飲食店」は上昇したが、その他の5業種は低下した。

在庫量D Iは、2期連続で低下した。製造業では「食品」など3業種で低下し、「紙・パルプ・印刷」など5業種で上昇。非製造業では「建設」「飲食店」が低下し、「小売」は横ばい、「卸売」で上昇した。

原材料仕入価格D Iは、原油価格等の下落を受けて26.9ポイント大幅に低下し、製造業、非製造業ともに3期ぶりに低下した。製造業ではすべての業種で低下し、非製造業では「サービス（企業関連）」を除き、そのほかの6業種で低下した。

製品販売価格D Iは、3期ぶりに低下した。製造業では「木材・家具」「機械」が上昇し、非製造業では「サービス（企業関係）」が上昇したが、その他の12業種は低下した。

採算D Iは、売上高や製品販売価格の低下を受けて、製造業を中心に悪化し、5期連続でさらに低下した。

資金繰りD Iは、10月末からスタートしたセーフティネット保証等の金融支援は行われているものの、2007年第1四半期以降の悪化傾向は改善せず、製造業、非製造業ともに6期連続で悪化した。

借入れ難易感D Iも同じく、製造業、非製造業ともに悪化し、5期連続の悪化となった。

設備投資実施D Iは、若干上昇したがほぼ横ばい。設備投資意欲D Iは、「飲食店」を除き軒並み低下して、8期連続の低下となった。

雇用D Iは、有効求人倍率の低下や減産に伴う雇用の過剰感を反映し、2008年第1四半期以降3期連続して上昇し、20期（5年）ぶりに「過剰」企業数が「不足」企業数を上回った。今後、景気低迷の長期化によってさらなる雇用状況の悪化が懸念される。

なお当センターでは、緊急雇用対策として「離職者等相談窓口」を設置している。